

.....編集後記.....

◆北方域特集の第2弾をお送りします。今回はマグマ活動と鉱物資源で纏めてみました。極東ロシアの鉱物資源はまだその概要がわかる程度ですが、大まかな資源量評価の判断には使えるのではないかと思います。

◆サハリンについては6月号で紹介しましたように、実際の調査も行われており、かなり詳しくわかってきましたが、同じく北海道と近隣の千島列島は文献も充分でなく、まとめるのに大変苦労しました。漁業資源の交流と同様に地球科学分野でも交流が必要と思いました。

◆本年4月4日からサハリンとの初めての航空路、ユージノサハリンスク-函館線が開通し、順調な乗客率を維持しています。来年からは相互乗り入れのフェリーの運行も決まりました。これからはどんどんと交流を進め、早く通常の隣人関係としたいものです。
(石原舜三)

◆特集：北方域Ⅰ、Ⅱの編集では、原稿の査読などで、編集委員会以外の方からもご協力頂きました。貴重な助言をいただいた周藤賢治・脇田浩二・渡辺寧の各氏に厚くお礼申し上げます。

◆本や雑誌が、読む人(読者)と書く人(筆者)で成り立つと考えられていたのに対し、作る人(編集部)をもうひとつの柱として明確に位置づけたのは、戦後再刊された『図書』の巻頭言に「読む人、書く人、作る人」という標語を選んだ林達夫(1896-1984)だそうです(久野収、週間金曜日25号)。何万部も出ている雑誌に比べたら小さなしかも特定の読者を対象にする本誌の場合にも、林の指摘は当てはまるわけで、責任の重さを改めて感じさせられます。「作る人」にも値しないような最近の怠慢な発行状況を反省しつつ、幸い強力な支援も得て、6-8月号でかなり元に戻しました。

(佐藤興平)

[訂正]

- 1994年4月号, 「ライマン雑記(10)」, P. 46, 第2 図中
(誤) 箱館 (誤) 第6 図参照
(正) 函館 (正) 第5 図参照
- 1994年6月号, 「サハリンにおける変成帯のテクトニクス」, P. 13, 第1 表中
(誤) 角閃石と共存しないローソン石+アラレ石
(正) ナトリウム角閃石と共存しないローソン石+アラレ石
- 1994年7月号, 「南アの先カンブリア紀花崗岩類と錫鉱床」, P. 27, 末尾
〈受付: 1994年1月7日〉が脱落していました。

地質ニュース編集委員会

委員長: 小玉喜三郎

副委員長: 佐藤興平

幹事: 宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員: 今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・
野田徹郎・吉井守正・豊 遙秋・佐藤岱生

顧問: 林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局: 総務部業務課広報係 (畠山浩之・清水真寿美)
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地 質 ニ ュ ー ス

第480号 1994年8月号
定価 ¥ 770 千実費

1994年8月1日 発行

編 集

発 行人

発 行 所

工業技術院地質調査所
林 久 雄
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京 00110-6-32466

麹町局私書箱第21号

印 刷

小宮山印刷工業株式会社

©1994 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。